

【男子】 (21日・7位以下関係分)

世界記録	シャニー・デービス (米国)	1分41秒04
日本記録	中村 奨太 (ロジネットジャパン)	1分44秒99
国内記録	中村 奨太 (ロジネットジャパン)	1分46秒26
リンク記録	キエルド・ナウス (オランダ)	1分45秒97
①近藤 太郎 (専大)		1分48秒18
②中村 奨太 (ロジネットジャパン)		1:48・20
③ウィリアムソン師円 (日本電産サンキョー)		1:48・41
④小田 卓朗 (開発計画研究所)		1:48・56
⑤一戸誠太郎 (信州大)		1:48・95
⑥三輪 準也 (フィットラボー法大、白樺学園高出)		1:50・16
⑧渡部知也 (シリウス一日体大、池田高出) 1:50・78	⑨小川翔也 (専大一同高出) 1:50・79	⑩大和田真 (日本建物管理一北翔大、本別高出) 1:51・08
⑪小坂龍 (福井県体協一専大、白樺学園高出) 1:51・50	⑫池田崇将 (専大一同高出) 1:51・64	⑬高田衛 (帯広連盟) 1:52・24
⑭小原憂雅 (高崎健大一带南商高出) 1:52・27	⑮東城拓也 (ダイイチ白樺学園高出) 1:53・31	⑯大竹拓三 (法大一駒大苫小牧高、芽室中出) 1:54・09
⑰佐藤隆 (帯南商高) 1:54・19	⑱下坂和彦 (日体大一带三条高出) 1:54・85	⑳小川拓朗 (abcdrug一白樺学園高出) 1:56・01
㉑大西祐輔 (日大一池田高出) 1:56・57	㉒戸水謙一郎 (帯南商高) 1:58・10	㉓橋本萌生 (高崎健大一带南商高出) 1:59・11
㉔小岩和輝 (東洋大一白樺学園高出) 2:30・32		

世界記録	テッドヤン・ブローメン (カナダ)	12分36秒30
日本記録	土屋 良輔 (専大)	13分12秒82
国内記録	小川 拓朗 (abcdrug)	13分20秒78
リンク記録	李 承勲 (韓国)	13分21秒04
①土屋 良輔 (専大)		13分34秒42
②ウィリアムソン師円		13:48・13
③一戸誠太郎		13:48・82
④小川 翔也		13:54・20
⑤帰山 雄太 (開発計画研究所)		14:10・56
⑥林 莉輝 (長野・佐久長聖高)		14:19・65
⑦東城拓也14:28・23	⑧渡部知也14:43・52	

世界記録	シャニー・デービス (米国)	145.742
日本記録	ウィリアムソン師円 (日本電産サンキョー)	153.163
国内記録	中村 奨太 (駒大苫小牧高)	160.100
①ウィリアムソン師円		153.379
②土屋 良輔		154.435
③一戸誠太郎		154.898
④小川 翔也		156.769
⑤帰山 雄太		157.732
⑥林 莉輝		158.537
⑦渡部知也159.512	⑧東城拓也159.540	

世界記録	ヘザー・リチャードソン (米国)	1分50秒85
日本記録	押切美沙紀 (富士急)	1分54秒10
国内記録	高木 美帆 (日体大)	1分56秒25
リンク記録	イレイン・プスト (オランダ)	1分56秒93
①高木 美帆 (日体大一带南商高出)		1分57秒49
②押切美沙紀 (富士急一駒大苫小牧高、中札内中出)		1分59秒76
③佐藤 綾乃 (高崎健大)		2:0・26
④高木 菜那 (日本電産サンキョー一带南商高出)		2:0・36
⑤田畑 真紀 (日本建物管理)		2:1・09
⑥松岡 芙蓉 (富士急)		2:2・38
⑦高橋菜那 (ダイイチ山梨学院大、白樺学園高出) 2:2・58	⑧松田有幾 (ジョイフィット) 2:3・81	⑨辻本有沙 (電算一信州大、白樺学園高出) 2:5・03
⑩吉村優那 (帯南商高) 2:5・21	⑪藤村祥子 (美十一日体大、白樺学園高出) 2:5・57	⑫山田真以 (福井県体協一日体大、帯三条高出) 2:5・60
⑬小野寺優奈 (高崎健大一带南商高出) 2:6・33	⑭川村聖亜 (イコテッー白樺学園高出) 2:7・03	⑮原田梨央 (山梨学院大一同高出) 2:8・29
⑯小竹琉湖 (山形中央高一音更中出) 2:10・80	⑰養田結依 (山梨学院大一同高出) 2:11・10	

世界記録	マルチナ・サプリコワ (チェコ)	6分42秒66
日本記録	石野枝里子 (日本電産サンキョー)	6分55秒07
国内記録	穂積 雅子 (ダイチ)	7分5秒17
リンク記録	穂積 雅子 (ダイチ)	7分7秒56
①高木 美帆		7分11秒58
②田畑 真紀		7:17・93
③押切美沙紀		7:18・27
④佐藤 綾乃		7:18・52
⑤松岡 芙蓉		7:19・18
⑥高木 菜那		7:20・98
⑦高橋菜那7:23・10		

世界記録	シンディー・クラッセン (カナダ)	154.580
日本記録	田畑 真紀 (ダイチ)	160.480
国内記録	高木 菜那 (日本電産サンキョー)	164.410
①高木 美帆		162.431
②押切美沙紀		164.925
③佐藤 綾乃		165.723
④高木 菜那		167.029
⑤田畑 真紀		167.056
⑥高橋 菜那		168.565



高木美帆がまた大きな栄冠を手にした。昨季のスプリントに続く全日本女王の称号。オールラウンドでは3年連続2位だっただけに「やっと取れた。応援してくれていた多くの人の期待に応えられて、まずはほっとした」。

最終日最初の1500mは、1分57秒49の大会新、リンクでの自己記録も更新して総合優勝をほぼ確実にした。最後の5000mは、14年前に全4種目を制した田畑真紀(日本建物管理)が2組前で7分17秒93を出した。

女子5000mでトップに立ち総合初優勝を決めた高木美帆(中央)が表彰台の上で表情を緩める。右は3位の押切美沙紀、左は2位の田畑真紀(新井拓海撮影)。

## 栄冠「やっと取れた」 次はスプリント「食らいつく」

「田畑さんの素晴らしいレースを見て気が引き締まった。中長距離ナショナルチームのヨハン・デビットヘッドコーチと立てたプラン通り、3400mまで34秒前半のラップを刻み残り4周は34秒台中盤をキープ。『今大会が一番良い滑り』で国内自己ベスト。有終の美を飾った。」

昨年優勝の菊池彩花(富士急)が欠場、押切や姉の菜那も足を痛めて万全ではない。優勝へのプレッシャーも掛かる中、4種目とも乱すことなく滑り終えた。28日には連覇の懸かる全日本スプリント選手権(長野)が開幕する。全種目で成長したいと強い向上心を持つ。「スプリント陣は調子が良い。チャレンジャー精神で臨み食らいついていきたい」と闘志を語った。

「田畑さんの素晴らしいレースを見て気が引き締まった。中長距離ナショナルチームのヨハン・デビットヘッドコーチと立てたプラン通り、3400mまで34秒前半のラップを刻み残り4周は34秒台中盤をキープ。『今大会が一番良い滑り』で国内自己ベスト。有終の美を飾った。」



【女子5000m】足の痛みに耐えながら懸命の滑りを見せる押切美沙紀

## 全日本スケート 押切が総合2位 男子は師円3連覇

スピードスケートの第84回全日本選手権(日本スケート連盟主催)最終日は21日、明治北海道十勝オーバルで男女4種目が行われ、高木美帆(日体大一带南商)が4種目総合で大会新とリンク新をマークして初優勝した。前日に2種目、別町出身、橋本聖子(富大、白樺学園高出)が入った。

スピードスケートの第84回全日本選手権(日本スケート連盟主催)最終日は21日、明治北海道十勝オーバルで男女4種目が行われ、高木美帆(日体大一带南商)が4種目総合で大会新とリンク新をマークして初優勝した。前日に2種目、別町出身、橋本聖子(富大、白樺学園高出)が入った。

士急)に次ぐ史上3人目の2大会での優勝者となった。総合2位は押切美沙紀(富士急一駒大苫小牧高、中札内中出)。4位に高木美帆(日体大一带南商)が入った。3種目を終えて3位に付けていた三輪準也(フィットラボー法大、白樺学園高出)は、最終の1方を棄権した。

北雅貴、新井拓海

次のレースまでリハビリに専念

押切

○「押切美沙紀が前回同様、足の痛みに耐えながら力走した。1500mは積極的な滑りで700mまでは同走の高木美帆とほぼ同じタイムで2位。棄権の選択もあつた5000mは自分の意思で出場、3位となった。妹のポプス、選手、麻季亜の存在も大きい。今月上旬のヨーロッパ

○「今できる力は出せた。1500mで4位以内に入る最低の目標はクリアできた。両足を痛めている高木菜那は淡々と振り返った。」

アジア冬季大会と世界距離別選手権の代表の座を懸けて臨んだ。ラップの落ち幅を最小限にとめようと粘り、3位の佐藤綾乃に0秒10の小差の4位と踏ん張った。5000mでは思ったよりも体力が落ちていないと、手応えも感じた。世界距離別とW杯第5戦の代表はひとまずつかんだ。後半戦が始まる前にけがを治し、「来季につながるレース」と力を込めた。

今この力出せた  
4位の高木菜那

○「今できる力は出せた。1500mで4位以内に入る最低の目標はクリアできた。両足を痛めている高木菜那は淡々と振り返った。」



【男子1万m】歯を食いしばって力走する小川翔也。総合4位と健闘した

男子総合3連覇のウィリアムソン師円の話。力は付いてきていると実感している。スピードと持久力が求められるオールラウンドは誰にも譲れない気持ちがあった。今季はこれまで順調。前半戦の勢いを殺さずに、もう一つレベルアップしていきたい。

誰にも譲れない

男子総合3連覇のウィリアムソン師円の話。力は付いてきていると実感している。スピードと持久力が求められるオールラウンドは誰にも譲れない気持ちがあった。今季はこれまで順調。前半戦の勢いを殺さずに、もう一つレベルアップしていきたい。

# 美帆快挙

## 大会リンク新 4種目完全制覇